



TITLE:

# 長期野外研究プロジェクト(Ⅲ.研究活動)

AUTHOR(S):

---

CITATION:

長期野外研究プロジェクト(Ⅲ.研究活動). 霊長類研究所年報 2012, 42: 75-76

ISSUE DATE:

2012-10-04

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/171609>

RIGHT:

## 長期野外研究プロジェクト

### <研究概要>

#### A) 東南アジア熱帯林の霊長類の社会生態学的研究

松田一希, 半谷吾郎 (生態保全), 大谷洋介 (生態保全)

2005 年より、マレーシアサバ州のスカウ村を拠点としたテングザルの長期観察プロジェクトを行っている。本プロジェクトでは、テングザルの社会生態、採食生態、行動生態の観点から研究を進めている。また、テングザルと同所的に生息している他の昼行性霊長類（オランウータン、テナガザル、カニクイザル、ブタオザル、シルバーラングール）や地上性哺乳類（ヒゲイノシシ、サンバー、マメジカなど）の基礎的な生態・社会の研究も同時に行っている。

食物資源量の変動を調べる目的で、スカウ村近郊にあるキナバタンガン川の支流マナングル川に設置している植生調査区で、毎月一回の植物フェノロジー調査を行った。また、テングザルを含む霊長類 6 種の個体群動態を明らかにするために、ボートによる霊長類センサスを毎週一回行った。今まで行ってきたスカウ近郊の川辺林とは異なる植生である、マングローブ林に生息するテングザルの予備調査も行った。スカウ村のブタオザルの基礎的な生態、社会を明らかにする目的で、ボートセンサスを用いた予備調査を行った。

#### B) カリンズ森林保護区に棲息する野生霊長類の研究

伊左治美奈, 橋本千絵 (生態保全), 江島俊 (生態保全), 古市剛史 (社会進化), 岡本宗裕 (人類進化モデル研究センター)

ウガンダ共和国カリンズ森林保護区に生息する野生チンパンジー 2 集団を対象に、集団間の出会いの交渉、社会行動の違い、採食行動についての長期的データを収集した。果実量についても月 1 回データをとった。人獣共通感染症の研究を進めるために、糞試料による寄生虫の調査を行ったほか、感染の履歴を調べるための糞・尿試料を収集した。さらに、エコツーリズムの影響を調べるために、観光客に対するチンパンジーの行動のデータを収集した。

#### C) 野生ボノボの集団構造の生成についての研究

坂巻哲也, 古市剛史 (社会進化)

野生ボノボの毛づくろい交渉、集団メンバーの出会いの交渉、移入メスの社会関係の変遷に関するデータ収集と分析、結果の公表を進めた。集団間関係をテーマに、新たな調査集団の追跡観察、人づけ、個体識別を継続した。行動の多様性をテーマに、隣接個体群の調査も継続した。

### <研究業績>

#### 原著論文

- 1) Bernard H, Matsuda I, Hanya G, Ahmad AH (2011) Characteristics of Proboscis Monkey (*Nasalis larvatus*) Night Sleeping-trees in Sabah, Malaysia. *International Journal of Primatology* 32:259-26.
- 2) Bernard H, Matsuda I, Hanya G, Ahmad AH (2011) Effects of river width on the selection of sleeping-site by proboscis monkeys (*Nasalis larvatus*) in Sabah, Malaysia. *Journal of Tropical Biology and Conservation* 8:9-12.
- 3) Matsuda I, Tuuga A, Bernard H (2011) Riverine refuging by proboscis monkeys (*Nasalis larvatus*): implications for adaptive benefits in riverine habitat. *Mammalian Biology* 76:165-171.
- 4) Matsuda I, Murai T, Clauss M, Yamada T, Tuuga A, Bernard H, Higashi S (2011) Regurgitation and remastication in the foregut-fermenting proboscis monkey (*Nasalis larvatus*). *Biology Letters* 7:786-789.
- 5) Matsuda I, Tuuga A, Bernard H, Furuichi T (2012) Inter-individual relationships in proboscis monkeys: a preliminary comparison with other non-human primates. *Primates* 53:13-23.
- 6) Sakamaki T (2011) Submissive pant-grunt greeting of female chimpanzees in Mahale Mountains National Park, Tanzania. *African Study Monographs* 32:25-41.

#### 総説

- 1) 松田一希 (2011) テングザルから紐解くコロブス亜科の多様な生態と社会. 霊長類研究 27:75-93.

#### 著書 (分担執筆)

- 1) Furuichi T, Idani G, Ihobe H, Hashimoto C, Tashiro Y, Sakamaki T, Mulavwa BN, Yangozene K, Kuroda S (2011) Long-term studies on wild bonobos at Wamba, Luo Scientific Reserve, D.R. Congo: towards the understanding of female life history in a male-philopatric species. (Long-term field studies of primates) (ed. Kappeler P, Watts D) p.413-433, Springer-Verlag, Berlin, Heidelberg.
- 2) Sha J, Matsuda I, Bernard H (2011) The Natural History of Proboscis Monkey. (Natural History Publications, Kota Kinabalu) p128.

#### 著書 (単著)

- 1) 松田一希 (2012) テングザル—河と生きるサル. 東海大学出版会. p.146.

#### 学会発表

- 1) 松田一希, Tuuga A, Bernard H, 古市剛史 (2011) テングザル社会の特徴: メスの移籍様式と個体間関係. 第 27

回日本霊長類学会大会 (2011/07, 犬山).

- 2) 松田一希, 村井勲裕, Clauss M, 山田朋美, Tuuga A, Bernard H, 東正剛 (2011) 霊長類の反芻行動の発見: テングザルの事例. 2011 年度日本哺乳類学会大会 (2011/09, 宮崎).

#### 講演

- 1) Matsuda I (2011/05) Evolution of Primate Society. Lecture - Studying and Monitoring Primate Behavior: A Workshop for Asian Conservation Professionals. シンガポール.
- 2) 松田一希 (2011/07) フィールドワークの可能性ーテングザル研究と私ー. 第 27 回日本霊長類学会大会 高島賞受賞講演. 犬山.
- 3) 松田一希 (2011/11) ラボからフィールドへ: ボルネオのジャングルでテングザルを追う. 同志社大学無機化学研究室 修業会. 京都.
- 4) Matsuda I (2011/12) Proboscis Monkey -Big Nose of Borneo. University of Zurich 主催 Lecture series on "Indonesian wildlife". チューリッヒ.

## 2. 交流協定

### 学術交流協定

2012 年 3 月 31 日現在

協定国	協定先	協定先 (アルファベット表記)	協定年月日	期間
ギニア	ギニア科学技術庁	La Direction Nationale de la Recherche Scientifique et Technique	2004.1.28	5 年間 (自動継続)
ギニア	ボッソウ環境研究所	L'Institut de Recherche Environnementale de Bossou (IREB)	2004.1.4	5 年間 (自動継続)
スリランカ	スリジャヤワルデネプラ大学 社会学人類学教室	University of Sri Jayawardenepura (Faculty of Arts, Department of Sociology and Anthropology)	2005.8.18	10 年間
台湾	国立屏東科技大学 野生動物保全学研究所	Institute of Wildlife Conservation National Pingtung University of Science and Technology	2008.1.18	10 年間
タイ	タイ王国動物園協会	The Zoological Park Organization, Thailand	2009.9.16	5 年間 (2009.10.1~)
大韓民国	ソウル大公園 (ソウル動物園)	Seoul Grand Park (Seoul Zoo)	2010.4.28	—
タイ	チュラロンコン大学理学部	Faculty of Science, Chulalongkorn University	2010.5.24	5 年間 (自動継続)
コンゴ民主 共和国	生態森林研究所	The Research Center for Ecology and Forestry, Democratic Republic of Congo	2010.9.15	5 年間
インドネ シア	アングラサ大学理学部	Department of Biology, Faculty of Science, Andalas University	2011.4.27	5 年間 (2011.4.1~)
バングラ デシュ	野生生物保護局	The Wildlife Trust of Bangladesh, Bangladesh	2011.3.12	5 年間 (2011.4.1~)
タイ	カセサート大学理学部	Faculty of Science, Kasetsart University	2011.4.25	5 年間 (2011.5.1~)

### 共同研究協定

日本	財団法人名古屋みなと振興財団 (名古屋港水族館)		2009.7.3	—
日本	財団法人高知県 のいち動物公園協会		2010.8.12	2013.3.31
マレーシア	オランウータン島財団	Orang Utan Foundation	2010.11.1	—
マレーシア	ブラウバンディング財団	Pulau Banding Foundation	2010.11.1	—
マレーシア	サバ財団、ペトロリアム・ナシヨ ナル株式会社 (ペトロナス)、サ バ州森林局、サバ州野生生物局、 マレーシア科学アカデミー	Yayasan Sabah, Petroliaam Nasional Berhad(Petronas), Sabah Forestry Department, Sabah Wildlife Department, Academy of Sciences, Malaysia	2011.6.29	—

## 3. 学位取得者と論文題目

### 京都大学博士 (理学)

福島美和 (課程): Reading and Writing Support for Children with Developmental Disorders: The Possibility of Using e-Learning (発達障害児の読み書き学習支援: e-Learning を取り入れた支援の可能性)